

開催報告

第9回 家活グランプリ
結果発表！

J Aを核とした本・支店協同活動や組合員組織活動の活性化、生活・地域・文化の振興に向けて、J A職員が実践している「家の光三誌」の活用方策を募集する本グランプリ。今回も全国からたくさんのアイデアが寄せられました。

北川太一（摂南大学 教授・審査委員長）、佐久間幸子（家の光専門講師）、木下春雄（家の光協会 代表理事専務）の各審査委員（敬称略）による厳正な審査の結果、入選者が決定しました。

審査結果

最優秀賞

「地域をつなぐ『家の光』の力～J Aしまね出雲女性部の挑戦」

島根県 J Aしまね 濱村美紀さん

優秀賞

「きっかけは…家活！」

秋田県 J Aあきた白神 桂田真智子さん

「まさに教本！困った時の『家の光』」

神奈川県 J Aあつぎ 露木美里さん

佳作

「次世代へつながる活動を目指して！」

愛知県 J Aあいち中央 野口よしみさん

「教育文化活動を通じた組織の活性化とJ Aのファンづくりについて」

福岡県 J A福岡市 山口幸一郎さん

■ 多彩な事例が「家活の輪」を広げる

審査委員長 北川太一

今回の家活^{いえかつ}グランプリでは、『家の光』だけではなく『地上』『ちゃぐりん』を生かした活動、他部署との連携を進めた取り組みなど、多彩な事例が寄せられました。

最優秀賞の濱村美紀さん（ＪＡしまね）は、地区のブロック単位で教育文化セミナーを開催し、他部門との連携もはかった結果、『家の光』『ちゃぐりん』の増部を実現し、金融・共済の契約にも成果を

あげました。優秀賞の桂田真智子さん（ＪＡあきた白神）は、これまで経験がなかった部署への異動のなかで、『ちゃぐりん』を積極的に活用し、新規の定期購読者、助け合い組織参加者の増加につなげました。同じく優秀賞の露木美里さん（ＪＡあつぎ）は、半年間女性部活動がなかった状態から、『家の光』活用講習会のチラシ作成等に取り組み、自らも講師になって幅広い活動を展開し、「ＪＡ家の光クッキング・フェスタ」の復活も実現しました。

ＪＡ教育文化活動は、「家の光三誌」を積極的に活用しながら、組合員と役職員、地域の人たちとのつながりをつくることで、ＪＡにとって重要課題である組織基盤の強化をはかることをめざしています。さまざまな実践事例に学びながら、「家活の輪」がますます広がることを期待しています。



審査委員のみなさん。右から佐久間審査委員、北川審査委員長、木下審査委員

入選作品は、家の光協会のウェブサイト (<https://www.ienohikari.net/>) で公開いたします。また、最優秀賞受賞作品は『家の光』9月号に掲載予定です。令和7年度もキラリと光るアイデアを募集します。詳細は、今後上記サイトでご案内予定です。